

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、未来を拓く学校の創造 |
|--------|---|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 教育DXのもと学習者が主体的に学ぶ個別最適な学びの構築と授業改善の推進 2 積極的な生徒指導と教育相談の推進により安心安全な学校づくりと活力ある学校行事の推進 3 学校運営協議会による開かれた学校づくりと地域で活躍する生徒の育成 4 同僚性を高め、協働して教育を推進する学校づくりのための教職員研修の充実 |
|------|---|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学校自己評価 | | | | | | | 学校運営協議会による評価 | | |
|--------|--|---|--|--|-----------|-----|--------------|---------------------|--|
| 年度目標 | | | | 年度評価 | | | 実施日令和 年 月 日 | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 | |
| 1 | 【現状】 ・全国学力学習調査、市学習状況調査では市平均と並んでいるという結果である。 ・学校評価における「一人ひとりに合ったきめこまやかな学習支援を行っているか」の問いに対し、肯定的な回答は6割程度である。 【課題】 ・市学習状況調査及び本校独自の学習状況調査における「各教科の学習は好きか」の問いに対してG・S、社会、数学はほぼ市平均並みであるが国語、理科は市平均を下回る学年が見られる。実技教科においては8割を下回る教科も見られる。学習が実生活にどう生かされるかなど学習の動機づけに課題がある。 ・ICTの効果的な活用と、主体的で対話的な深い学びの指導の工夫と改善を追究する必要がある。 | ・主体的な学びを進めるための情報端末の活用 ・実生活に生きる学びのための各教科の動機づけと教科横断的な学習の工夫 | ① タブレット端末を活用するための校内研修を年間に5回実施する。 ② ICTを活用した校内研修授業を二学期までに1回実施する。 | ① 職員の理解や技能の平準化が図れたか。 ② ICTを効果的に活用する授業の在り方が共有できたか。 | | | | | |
| 2 | 【現状】 ・学校評価における「木崎中が好き」の問いにおいて、生徒、保護者とも肯定的な回答は7割5分である。「相談されたことに適切な対応をしている」では、保護者の肯定的な回答は8割を超えている。 ・安全教育における避難訓練は概ね真剣に取り組んでいる。また命を守ることに対しての教職員の意識も概ね良好である。 【課題】 ・登校しぶりや不定愁訴を訴える生徒が少なくないこととそれに対応する職員の経験不足は課題である。 ・毎月の安全点検の確実な実施と生徒への注意喚起、生徒自身の安全への意識を高めることに課題が見られる。 | ・魅力があり生徒の活力を育成する学校行事の推進 ・きめ細かく対応する生徒指導、教育相談の充実 | ① 人間力を育成するための体験活動の実施。異学年齢交流、生徒会活動の充実と体験的な学校行事の実施。地域でのボランティア活動の実施。(11月12日(土)に実施予定。) ② 生徒指導体制と教育相談体制の整備。全校三者面談の実施(年2回)教育相談週間の実施(各学期1回)毎週の校内委員会の実施。生徒に関する連絡会の実施。(年2回)報告連絡相談見届けの体制強化。ケース会議の実施(随時) | ① 「木崎中が好き」の肯定的な回答を8割以上得られたか。生徒が積極的に学校生活を送り行事等に取組めたか。 ② 「相談に対して適切に対応している」の肯定的な回答が8割を超えているか。生徒指導、教育相談が組織的に機能していたか | | | | | |
| 3 | 【現状】 ・学校運営協議会準備委員会にて本校生徒につけたい力、並びに地域に貢献する生徒の育成という方向が確認された。 ・関係機関との生徒に係る連絡会は年2回開催することが定着している。 【課題】 ・地域との連携に関して、関心が低い教職員がやや見受けられる。 ・学校運営協議会で熟議された内容の周知と具体的な取り組みの実践をとおして、地域とともにある学校づくりを進めていく。 | ・保護者、地域への学校公開 ・木崎中生が取り組む地域活動と、地域のボランティア活動への参加 | ① コロナ禍の状況を見ながら学校公開日年1回、授業参観年2回、学級懇談年3回実施。学校だよりをはじめ、HPで学校の様子を発信する ② 学校運営協議会を年間に3回実施し、地域で活躍する生徒についての熟議を行う。木崎中生による地域活動の実施(年1回) | ① 「学校や生徒の活動の様子を保護者に伝えているか」の積極的な回答が8割を超えているか。 ② 地域とともに歩む学校と保護者、地域とのかかわりにおいて、保護者と地域との連携が図れたか。 | | | | | |
| 4 | 【現状】 ・教育DXの推進とICTの活用においてエバンジェリストが率先して情報提供をしている。 ・研修担当が計画的に事故防止や資質向上に関する研修を行っている。 【課題】 ・職員の経験値の差があり、資質向上の研修が絶えず必要である。 ・職員の共通理解の下、共通行動で取り組める指導体制の構築に課題がある。 ・一層の心地よい職場環境づくりが必要である。 | ・学校教育のプロとしての自覚を高め、働きがいを実感でき、心地よい職場環境の醸成 | ① 共通理解、共通行動のために職員会議、学年会、各部会等の計画的な実施。(月1回)資質向上のための研修の実施(学期に2回) ② 勤務時間外在校時間だけにとらわれずに働き方を見直し、同僚性を高め、働きやすい職場環境をつくるために自己評価シートに反映させる。 | ① 教育のプロとしての自覚を高め、資質の向上と指導の工夫改善に努め、働きがいを実感できているか。 ② 経験の差を超えて同僚性を高め、働きがいがあり心地よい職場環境であるか。 | | | | | |